

第21回 北海道十勝新聞教育
研究大会清水大会

「新聞を活用した道徳授業」

平成22年11月12日(金) 15:00~16:20

清水町立御影中学校



北海道新聞 NIE 推進センター

日下部 憲 一

道徳学習指導案

日 時 平成22年9月10日 5校時
 児童 網走市立東小学校 第6学年
 指導者 日下部 憲一 (NIE コーディネーター)
 GTI(ゲストティーチャー：東小学校保護者4名)

- 1 主 題 名 「生命の尊重」 内容項目3-1(1)
- 2 ねらい 「自らの生命の尊さに気づかせ、喜びと感謝の気持ちをもつてよりよく生きようとする心を育てる。」
- 3 資料名 北海道新聞の記事(授業に参加している児童の誕生日の記事。米国で心臓の生体移植を行った寺町沙也さんの記事)

4 展 開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	留意点
導 入	1 誕生日の新聞を配布するとともに、赤ちやん誕生の産声を聴く。 2 寺町沙也さんの記事を読み、命について考える。 ◆時系列の記事を読みながら、生命や生きることの意義について考える。	① 今日学習する内容のヒントは、今配布した新聞にあります。どんな内容でしょうか。 ・ 誕生日の新聞だ。 ・ 生命の誕生。 ② 「余命半年」と宣告されたが、本人や両親の思いは、どのようなものだろう。 ・ 手術を受けたい。両親のためにも生き続けたい。(本人) ・ いろんなことがあっても子供を助けたい。募金を呼びかけたい。(両親) ③ 手術が成功し、「一心同体」のコメントにどんな思いがこめられているのだろう。 ・ 多くの人に感謝したい。 ・ その人(臓器提供者)の分まで生きて、役立ちたい。 ・ 拒絶反応がなく良かった。	誕生日の新聞の配布と録音を聞かせ、「命」の授業の導入を図る。
展 開	3 小集団グループに入ったGTの出産体験等の話を聴く。 ◆GTとのかかわりを通して「命」の学びを深める。	④ 自分の名前の由来を述べながら、GTに自己紹介しよう。 ⑤ GTのお話や交流を通して学んだことをまとめよう。 ア 「感動や感銘を受けたこと」 ・ 出産する前の苦労や命の大切さについて。 ・ へその緒や足型について。等 イ 「質問してわかったこと」 ・ 妊娠中の食べ物や子どもの健康管理について。等 ウ 「交流後の感想」 ・ 親の苦労に感謝したい。周りの人たちも誕生を祝福している。 ・ 子どもに対する親心がわかったような気がする。等。	小集団グループごとに交流する。 保護者や地域の人々が直接児童に語りかける体験談や願いは、児童の心に強く訴えるものである。 何人かの児童に発表させ、学級での交流を通して価値を深める。 時間の余裕があれば、児童発表後、保護者の感想も発表させたい。
終 末	4 本時で学んだことをまとめる。	⑥ 今日の授業の感想を書こう。	前向きに生きていこうとする気持ちを大切にしたい。

余命半年米で心臓移植

札幌出身 寺町さん 両親ら募金呼び掛け



重い心臓病で余命半年とされ、米國で心臓移植を目指す仙台市の寺町沙也きさん(14)札幌市出身の両親らが8日、札幌市内で記者会見し、手術費などの募金の協力を呼び掛けた。

寺町さんは札幌市立病院で一時的に回復した山鼻中の1年生だったものの、補助人工心臓が必要となった。2007年、部活動終了後に突然倒れ、心停止。搬送先の市立札幌に転院した。病名は「拡張型心筋症」で、主治医は昨年12月、「心臓移植をしなければ余命は半年」

と宣告。日本では15歳未満の子供からの臓器提供を認めていないため、両親は海外での移植を決めた。

米國のコロナビ大病院から受け入れの内諾を得たが、提供者が見つかって手術した場合は、計1億3千万円が必要という。

父親の貴史さん(43)は「命のカウントダウンが始まっており、沙也に生きるチャンスを与えてほしい」と話し募金の振込先は、ゆ

ちとぎ銀の振替口座02730・4・46032。問い合わせは「寺町

ちゃんを救う会」窓口11・7888・6187へ。

病室で15歳の誕生日を祝う寺町沙也さん (中央) と阿爾=3月27日 (さやちやんを敬う会提供)



心臓移植 寺町さん あす渡米

17年1月、聖徳の朝外に出ていない。17年1月、聖徳の朝外に出ていない。17年1月、聖徳の朝外に出ていない。

2年半外出なし 寺町さんは札幌市立... 2年半外出なし。寺町さんは札幌市立... 2年半外出なし。寺町さんは札幌市立...

兼意と希望 胸に

真心臓病と診断され、現在は仙台市の病院で開胸の札幌出身の寺町沙也さん... 真心臓病と診断され、現在は仙台市の病院で開胸の札幌出身の寺町沙也さん... 真心臓病と診断され、現在は仙台市の病院で開胸の札幌出身の寺町沙也さん...

「必ず元気になる」

「これは鎌倉孫集... 山島中で担任だった孫... 山島中で担任だった孫... 山島中で担任だった孫...

おいらら大勢だったか... だ、寺町さんは移... だ、寺町さんは移... だ、寺町さんは移...

体調が回復し、コロナピア大学病院の自宅でリハビリを受ける退院直前の寺町さん (右) =現地時間5月27日 (さやちゃんを救う会提供)



新しい心臓と「一心同体」

米国で心臓移植を受け安定したため、退院できたという。

沙也さん(15)が2日、今日はニューヨーク(日本時間3日未明)、のアパートで暮らし、ニューヨークのコロナピア大学病院を退院し、さやちゃんを救う会からのサポートを受ける。寺町さんは「本心を救う会(札幌)に感謝し、心臓と「一心同体」が実現し、順調なら年内に帰国するという。

寺町さんは渡米4日、多くの支えが重なる中、5月7日に移植を受けた。その後2回の検査を受け、その後も拒絶反応がなかった。免疫抑制剤の副作用などから眠れず、札幌市立山鼻中で倒れた。心臓移植手術が完了し、仙石の東北大学病院で補助人工心臓を装着したが、心臓移植が必要となり5月に渡米した。

寺町さん退院

道徳ノート

6年()番(名前)()



1.『自分の名前の由来』について家族からお話を聞き、まとめましょう。

2.グループでのGT(ゲイスターチー)のお話や交流を通して学んだことをまとめましょう。

①	GTのお話で感動したり感じたこと	
②	質問してわかったこと	
③	交流後の感想	

3.今日の道徳の授業全体をふりかえっての感想を書きましょう。



道徳ノート

6年()番(名前)()



1.『自分の名前の由来』について家族からお話を聞き、まとめましょう。

2.グループでのGT(ゲイスターチー)のお話や交流を通して学んだことをまとめましょう。

①	GTのお話で感動したり感じたこと	
②	質問してわかったこと	
③	交流後の感想	

3.今日の道徳の授業全体をふりかえっての感想を書きましょう。



新聞記事で学ぶ「命」

網走・東小でセミナ



【網走】新聞を学校教育に活用するNIE（教育に新聞を）活動を支援する北海道NIE推進協議会は10日、網走市内の東小でNIE北見・網走ゼミナールを開いた。オホーツク管内の教育関係者や保護者ら20人が参加。同協議会の



新聞記事を使って、命の尊さを考えた網走・東小の道徳の授業

日下部憲一コトナキネ1ターが同小6年生14人に新聞記事を使って

6年生の道徳の時間で日下部さんは、北海

道徳の授業を行った。その後、管内の小中高教師3人が実例を報告、質疑応答なども行われた。日下部憲一コトナキネ1ターが同小6年生14人に新聞記事を使って

道新聞に掲載された、米国で心臓の生体移植を行った寺町沙也さんとは自分の名前の由来の記事を通じ、命の大切さを訴えた。また、同小の保護者様子を、それれ話し

（宮口江梨子）

14日朝刊に詳報を掲載します。



2 学年道徳学習指導案

日 時 平成22年10月8日 (金)

生 徒 釧路市立青陵中学校 2年4組

男子16名 女子20名 計36名

授業者 教諭 岩淵 希代美

1. 主 題 名 「母の思い」 内容項目4ー(6)

2. 資料名 「懇への手紙」～北海道新聞 2010年3月16日 朝刊～
補助資料 保護者からの「手紙」

3. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

この時期の中学生は、思春期のまっただ中で些細なことにも傷つきやすく、周囲からどう思われているかが気になり、自己否定感を持つ生徒もいる。同時に反抗期を迎える生徒も多く、一番安心できるはずの家族に対してさえも、疎ましく思える時があり、心とは裏腹な言葉が口を出て、さらに自己嫌悪に陥る悪循環に心悩ませる状況もある。

対象学級は、全体に素直な学級で、どちらかというとおとなしい生徒が多い。道徳の授業においても、挙手や自分の意見を発表することが苦手な生徒も見られるが、資料の内容に深く共感し、しっかりと考えたことがワークシートの記入内容からは伝わってくる。授業の中では、そういった現状をふまえ、小さなつぶやきを大切にしたい授業作りを心がけたい。

これまでの学級活動や学級通信でも保護者の愛情ということについては度々、話題にしてきたが、親がいて、庇護されるのが当たり前前の感覚はどうしてもぬぐいきれない。ここで、命がけの親の愛にふれることが大切と考える。同時に保護者からの手紙により、家族の大切さを考え、家族の思いを受け止め、家族の一員としての立場を再確認させたい。中学校卒業後の進路決定における大きな壁にも家族の愛を受けて、立ち向かっていこうとする心と、将来的な自分自身の理想の親像を持てるようにする。

(2) 資料について

「懇への手紙」は2008年4月と翌年6月、そしてこの春に北海道新聞に特集された記事である。札幌市の鎌田茜さん(28歳)は、2006年6月、左あごの下に「ガン肉腫」がみつかった。このとき茜さんは妊娠16週目。医師は、子どもをあきらめて手術するよう勧めたが、茜さんは自らの命ではなく、お腹の赤ちゃん(懇くん)の命を選んで11月に出産し、6日後にガンを切除した。しかし翌年12月にガンは肺で再発し、その後、2歳の我が子を残して、旅立ってしまった。闘病生活の中でも、我が子を愛し、懸命に生き抜いた母親の実話である。

今回の資料はその中でも、母親と子どもの関わり場面を中心に取り上げた。母親が自分の死を目前にして、我が子に残した「手紙」を中心として、母親とは、「ここまでして我が子を愛することができる」という姿を学び、母親の愛情を深く考えさせたい。

4. 本時について

(1) 本時のねらい

我が子のために必死に生きる母親の姿と保護者の手紙から、母親の思いと愛情に気づき、家族を大切にしようとする心情を育てる。

(2) 響かせるための手立て

資料との響き合い

同じ北海道内で実際に起こった出来事を通して、資料をより身近なものとして感じ、親が我が子を感じる心情をより深くとらえられると考える。

自分自身との響き合い

資料から、母親の心情に気づき、自分の親からの手紙を読むことで、どんな時も自分が親から愛されていることを理解し、本時の価値を自分のこととして、受け止められると考える。

(3) 本時の展開

	主な学習活動	教師の関わり
<p>導入</p> <p>1. 自分と自分の家族との関係を考える。</p>	<p><input type="checkbox"/> 家族との関係を考えさせる。 「あなたは家族をどう思っているでしょうか。」</p>	
<p>2. 資料「憩への手紙」を読んで内容を把握する。</p> <p>3. 母親がガンに冒されながらも行ったことについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出産 ・ 子育て ・ 闘病生活 	<p><input type="checkbox"/> 資料を読み、内容の確認をする。</p> <p>「昔さんはガンに冒されながら、どんなことをがんばっていましたか。」</p>	
<p>展開</p> <p>4. 母親が自分の息子への手紙にこめた思いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が生まれたことを責めないでほしい。 ・ しつかりと生きてほしい。 ・ パパの言うことを聞いてほしい。 	<p>「昔さんは、どんな思いをこめて、憩くんの手紙を残したでしょうか。」</p>	
<p>展開後半</p> <p>5. 家族から自分がどのような思われているか想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 憩くんほど思われていない。 ・ もっと勉強した方がいい。 	<p>「あなたは家族からどう思われていると思いますか。」</p>	
<p>終末</p> <p>6. 自分の親からの手紙を読み、親の愛情に気づく。</p> <p>7. 感想を書く。</p>	<p><input type="checkbox"/> 保護者からの手紙を手渡す。</p>	

憩への手紙

1年後のメッセージ



鎌田 茜さん

まっ白なエナジードレス
に身を包んだ鎌田茜さんが、
写真の中からいつもの笑顔
ほ笑んでいた。

「ア、帰ってくるの。」
札幌市にある茜さんの実家
でひとり息子の茜ちゃんがか
中

学教師の父守さん(30)にききや
いた。大好きなおぼろちゃん
おじちゃんおばにいた。

3歳と4カ月になった。すつ
とした面立ちは父に似て、意気
の強そうな目は母を思わせる。

茜さんの一週間の法要がこの
日、2月20日に営まれた。懇
ちゃんを葬り、育て、末期がんを

生きた茜さんが2歳で息を引き
取ったのは昨年2月25日のこと
だ。

昨年暮れ、守さんと茜ちゃん
は、あるDVDを見た。肺のが
んが脳に転移しているところか

つくり、自らにカミを向けて
たころ、茜さんがひとひり部屋に

西さんは最後のメッセージをDVDで観ちゃんに
通(のこ)した。観ちゃんが声を上げた。「アア、大好
きだよ。誰んでくられてありがどう。また明日ね」

ママのいる空

<上>

撮影したのだった。
それがなにか茜さんは話さ

なかつたけれど、子どもから観れ
る声で理言まるとは分かっ
ていた。つらくなるから、守る
のいない子にしてしまつてしま
なさい。アアは、息を産め
てあげ、ほんとに、い人
た茜さんが、自らに映された顔
間少なさを口にした。ただけ
どの観ちゃんの「手紙」。

それは、とても静かな4分5秒と
とくに、バの言うことを聞い
思います。どうか、ひひで抱
うこと聞いてください。DVD
を息ながら、観ちゃんは守さん
のひきだしやいだ。守さんが、
その目をのぞく。「ちゃんと聞
いてるかな?」。「聞くのは)
大人になったらね、これくらい
大きくならないら。観ちゃんが
小さな腕を構に抱いた。

北海道新聞社のホムペー
ジでうしんがエナジードレス
ingkaido.jp.co.jpにアクセスし
ています。

はいつわ、そう話していた。泣
かないこと、それはわが子ど
のさつたぬ、観の周りはたく
さんの大気がいます。いっほい、
約束だ。

抱きしめるいつでも

強く生きていって下さい。

アアは、アアのが、息を
まことをと聞いて、自分らし
く生きたい道を生きていって

けでもない、アアはのとき
に最高の選択をして、最高の笑
顔の壁に当たると思つていま

す。だからアアが、自分の生き
る道をしっかりとアア、アアと息をし
りしたまま息をします。好きな
人ができたり、子どもが生まれ

いって下さい。自分の行きた
む、あふれそうになる感情を抑
えていく。

「泣き顔をみせるために息を
止めたわね。アアは、茜さん
に話してあげるといいよ。」

「泣き顔をみせるために息を
止めたわね。アアは、茜さん
に話してあげるといいよ。」

「泣き顔をみせるために息を
止めたわね。アアは、茜さん
に話してあげるといいよ。」

「泣き顔をみせるために息を
止めたわね。アアは、茜さん
に話してあげるといいよ。」

「泣き顔をみせるために息を
止めたわね。アアは、茜さん
に話してあげるといいよ。」

「泣き顔をみせるために息を
止めたわね。アアは、茜さん
に話してあげるといいよ。」

「泣き顔をみせるために息を
止めたわね。アアは、茜さん
に話してあげるといいよ。」



札幌市の看護師鎌田茜さん
さんは自身の命ではなく、お
なかの赤ちゃん(観ちゃん)の
命を懸けて06年11月に出生。
同級生だった中学校教師の守
さんと結婚。06年6月、左あ
ごの左に「がん肉腫」があつ
た。がん患者40万人に1
余命は半年とされた。観ちゃ
んに密せて日記を書き、がん
を生きる姿を撮影してきた
目。医師は子どもを産むため
で手術をしようとしたが、茜
移していきることが分かった。

これまでの経緯

北海道新聞は2008年4月
と09年6月、それぞれ夕刊に観
ちゃんの手紙を連載した。がんを
生き抜く札幌市の看護師鎌田茜
さんと家族の姿を通して、命の
響きを考えてきた。茜さんが亡
くなってから1年。茜さんが残
してくれたものを伝える。
(東洋社編集部・渡辺敏世と写真
部・中川紀が担当します)

これまでのあらすじ (北海道新聞 2009/06/16 より抜粋)

5月の「母の日」直前に、札幌市にあるアパートを訪ねた。鎌田守さんと、2歳の長男、穂ちゃんに会った。

しかし、母親の茜(あかね)さん(タンスの上の写真の中で、にっこり笑っているだけだった)。

茜さんは、余命を宣告された末期がん患者だった。

2006年、左あごの下に、「がん肉腫」が見つかった。

そのとき、妊娠16週目だった。

医者(が)子どもをあきらめ、手術をするように勧めた。しかし、看護師でもあった茜さんが選んだのは、自分の命ではなく、おなかの子だった。

その後、穂くんを出産し、6日後にガンを切除した。ガンは肺で再発し、そして脳にまで転移した。具合が悪く、2009年1月下旬から、末期がん患者らが専門ケアを受けるホスピス病院に入院した。しかし、茜さんは半月後、「家に帰る」と言い出した。

帰宅すると、茜さんは4年前の結婚式の写真を持ち出した。「遺影を選ぶという。

ある夜。入浴した後、髪を乾かしていた茜さんに穂ちゃんが走り寄ってきて、言った。

「ママ、産んでくれて、ありがとう」

茜さんが「なんて言ったの？」と繰り返して聞いた。そして、言った。「こちらこそ、産ませてくれてありがとうね」。細い腕でしっかりと抱きしめた。

守さんがいつか穂ちゃんの口から伝えたかった言葉。夜、茜さんに内緒で、父子で練習したひと言だった。

その翌日の2月25日午後、茜さんは自宅のベッドで本当に眠るように息を引き取った。29歳だった。

たぐさんの花に浮かんだ遺影の茜さんは、純白のウェディングドレスを着て、笑っていた。あの日に選んだ一枚だった。

穂(かい)への手紙氏 (北海道新聞 2010/03/16 より)

まっ白なウエディングドレスに身を包んだ鎌田茜さんが、写真の中からいつものように微笑んでいた。「マア、帰ってくるの?」

ひとり息子の穂(かい)ちゃんが父親守さんにささやいた。

3歳と4カ月になった。茜さんの一周忌の法要がこの日、2月20日に営まれた。穂ちゃんを産み、育て、末期がんを生きた茜さんが29歳で息を取ったのは昨年2月25日のことだった。

昨年暮れ。守さんと穂ちゃんほ、あるDVDを見た。肺のがんが脳に転移していると分かったころ、茜さんがひりり部屋にこもり、自らにカメラを向けて撮影したものだ。

それがなにかを茜さんは話さなかったけれど、ドアから漏れる声で遺言であることが分かった。つらくなるから、守さんが再生することはなかった。

生きることをあきらめなかった茜さんが、自らに残された時間の少なさを口にした、ただひとつの穂ちゃんへの「手紙」。それは、とても静かな4分ほどのメッセージだった。

穂くん…穂はまだ2歳で母親のいない子にしまっただめんなさい…。マアほ…種を産めて、あー、本当に、いい人生でした。生まれてきてくれてありがとう。「産んでくれてごめんね」なんて決まっていた。パパの言うことを聞いて強く生きていくください。

マアほ、マアのがんほ、種を産んだことにより進行したわけでもないし、マアほあのときに最高の選択をして、最高の笑顔の穂に会えたと思います。だからどうか、自分の生きる道をしっかりと見定め歩いていくください。自分の行きたい道を生きられるように応援しています。寂しくなるときにいつでもをみれば、マアほ種を抱きしめます。

迷ったら、穂の周りにいたくさんの大人がいます。いっぱい、いっぱい相談に乗ってくれます。どうか、ひりり抱え込まないで、どうかパパの言うことをよく聞いて、自分らしく生きていく道を生きていくください。

茜さんほベットの横たわり、苦しそうにハア、ハアと息をしている。目を潤ませ、鼻をかむ。あふれそうになる感情を抑えている。

「泣き顔を見せるために種を産んだわけじゃない」。茜さんほいつも、そう話していた。泣かないこと。それおわが子との約束だ。

「ねえ、マアだよ。パパの言うこと聞いてたって」。DVDを見ながら、穂ちゃんほ守さんのひざでほしゃいた。守さんが、その目をのぞく。「ちゃんと聞いてるかな?」。「聞くのは」大人になったらね、これくらい大きくなったら。穂ちゃんが小さな腕を横に広げた。

穂ちゃんが、母の思いを受け止めるにはもう少し時間がいる。

道徳プリント

2年4組 番 氏名 _____

Q1.



Q2.

Q3.

自分の考え:

Q4.



Q5.

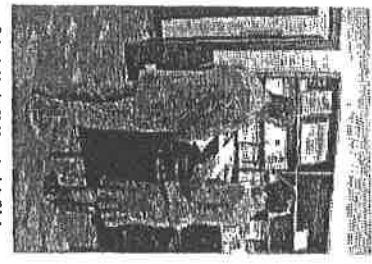
全国新聞

2009年(平成21年)
6月20日
土曜日

政治 4面
国際 7面・11面
経済 9・16・20面
文化 26・27面
地域

今も色あせない魅力 太宰治生誕100年

太宰が晩年を過ごした三福市では、昨年3月、太宰が通った勢作酒店の跡地に「太宰治文学サロン」を開設した。「このサロンは展示された資料を見るだけでではなく、訪れた太宰が様々な情で青森県出身の直木實作家・今宮一。太宰の作品「桜桃」にちなんで付けたと言われ、今年で60回目を迎えた。太宰にゆかりのある各地には、今年も多くの展覧会が実施された。昨日は179人が訪れ、1日当たりの来賓者数としては過去最高を記録した。サロンを訪れた京都府に住む太宰の会社員(33名)を訪れたときに「走れメロス」を贈り、ここ初めて出会った人と太宰の話を盛り上げた。外国人の太宰の魅力。今もなお新しい発見がある」と語り、また来た」と笑顔で話した。



「太宰治文学サロン」を訪れ、説明を受ける来賓者

「走れメロス」という歌謡教育身について考えている。今週は各地の様子を紹介して「食育の目」に合わせてできるのだという気がきが「食育の目」に合せて、生まれる自信や、多くの人がおかげで食事をすることとなる。

「食育」という歌謡教育身について考えている。今週は各地の様子を紹介して「食育の目」に合せてできるのだという気がきが「食育の目」に合せて、生まれる自信や、多くの人がおかげで食事をすることとなる。

「走れメロス」八国陸海空の作品を賞名したのは太宰と同郷で青森県出身の直木實作家・今宮一。太宰の作品「桜桃」にちなんで付けたと言われ、今年で60回目を迎えた。太宰にゆかりのある各地には、今年も多くの展覧会が実施された。昨日は179人が訪れ、1日当たりの来賓者数としては過去最高を記録した。サロンを訪れた京都府に住む太宰の会社員(33名)を訪れたときに「走れメロス」を贈り、ここ初めて出会った人と太宰の話を盛り上げた。外国人の太宰の魅力。今もなお新しい発見がある」と語り、また来た」と笑顔で話した。



最近 文学 作品を身近に感じさせる動きが盛んだ。

太宰が晩年を過ごした三福市では、昨年3月、太宰が通った勢作酒店の跡地に「太宰治文学サロン」を開設した。「このサロンは展示された資料を見るだけでではなく、訪れた太宰が様々な情で青森県出身の直木實作家・今宮一。太宰の作品「桜桃」にちなんで付けたと言われ、今年で60回目を迎えた。太宰にゆかりのある各地には、今年も多くの展覧会が実施された。昨日は179人が訪れ、1日当たりの来賓者数としては過去最高を記録した。サロンを訪れた京都府に住む太宰の会社員(33名)を訪れたときに「走れメロス」を贈り、ここ初めて出会った人と太宰の話を盛り上げた。外国人の太宰の魅力。今もなお新しい発見がある」と語り、また来た」と笑顔で話した。

1 上の新聞を読んで、あとの問いに答えなさい。

1 「太宰治文学サロン」が開設されたのはいつですか。次の(ア)と(イ)に当てはまる数字をそれぞれ書きなさい。

平成(ア)年(イ)月

「太宰治文学サロン」が開設された年【】

2 この紙面のトップ記事「今も色あせない魅力 太宰治生誕100年」と「クラム」との書き方の違いを説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1. トップ記事は結果を示してからその背景や原因を書いているが、コラムは時間の経過に沿って順番に書いている。
2. トップ記事は事実を中心に客観的に書いているが、コラムは事実だけでなく書き手の意見や感想も交えている。
3. トップ記事は最新の出来事取材した上で書いているが、コラムは過去の情景を的確に描写しながら書いている。
4. トップ記事は様々な事実を示してから結論を書いているが、コラムは結論を述べてからその根拠となる事実を書いている。

3 あなたは三つの記事の中で、どの記事の内容に興味をもちましたか。選んだ記事の内容について、次の条件1と条件2に基づいてあなたがあなたの感想を具体的に書きなさい。

条件1 A「今も色あせない魅力 太宰治生誕100年」、B「クラム」の三つの記事の中から一つ選べ。

条件2 選んだ記事のどのような内容について興味をもったのかが分かるように書くこと。

全国新聞	A 「今も色あせない魅力 太宰治生誕100年」
	B 「クラム」
C 「クラム」	

* 次のページの枠は、下書きに使ってかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。